



せんせいAI

はじめての一步を、
いっしょに。

AIで開発する非エンジニアのための伴走サービス

AIでつくったアプリを安全に公開して、ずっと育てられる状態へ。
エンジニアがマンツーマンでサポートします。

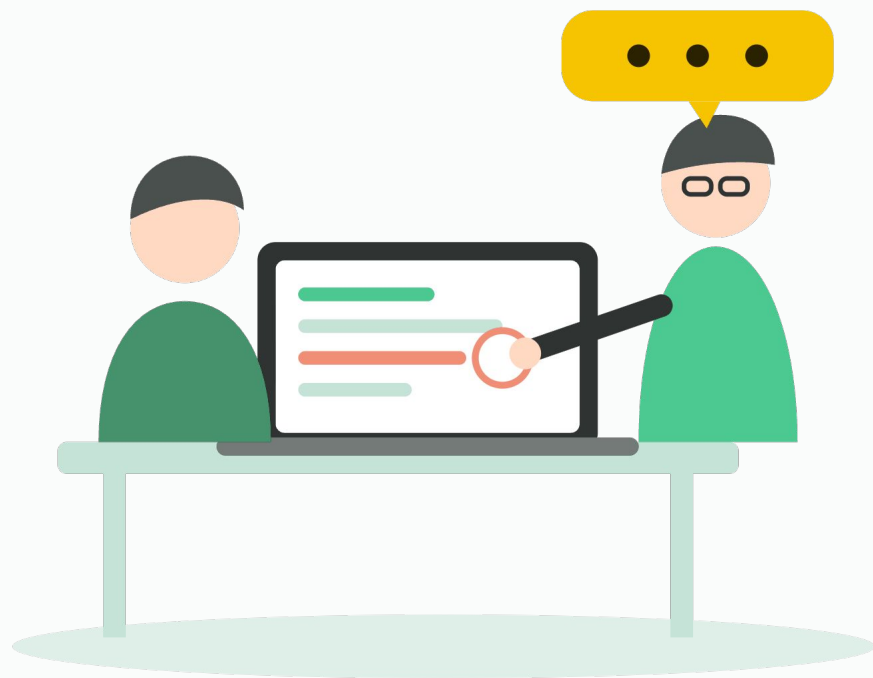
この鍵、ブラウザから丸見えです

```
// AIが生成したコード
const db = createClient(
  URL,
  "service_role_xxxx..."
)
// users テーブル: RLS off
await db.from("users").select("*")
```

アクセス制御をONにしよう

せんせいAIとは？

非エンジニアの開発に、エンジニアの作法を。



AIの台頭でエンジニアじゃなくても
開発ができるようになった世の中で
新たに生まれたりリスクを防ぎ、

非エンジニアでも
安全に開発ができるサービスです。

SECTION 01

なんでAI開発は こんなに市場に求められるようになったのか

業務を効率化したい企業が直面している、
外注・SaaS・AIそれぞれの課題を整理します



こんなお悩みはありませんか？

生産性を上げたいのに、ちょうどいい手段が見つからない

社内の業務を効率化するツールやシステムが欲しい。でも、どの方法にも不安が残ります。



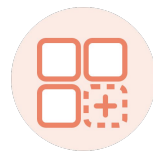
社内の生産性を上げるために、
ツールやシステムが欲しい

手作業や二重入力を減らして、本来の仕事に
時間を使いたい



外注すると、費用が高い...

見積もりを見て、依頼そのものをあきらめてしまう



SaaSだと、欲しい機能がない...

足りない部分は、結局手作業や別のツールで補うことに



AIを使いたいけど、使いこなせるか不安...

正しく動くか、情報が漏れないかを自分で判断できない

起きている事実① 外注

システム開発の外注は「費用」が大きなハードルに

開発会社への依頼にハードルを感じる人のうち、7割以上が「費用が高そう」を理由に挙げています。

開発会社への業務改善の依頼にハードルを感じる

54.3%

母数：働いている全国の男女400人

ハードルを感じる理由（ハードルを感じる人、複数回答）

費用が高そう



何を依頼すればよいか分からない



導入まで時間がかかりそう



社内で使いこなせるか不安



年間のシステム費用の水準

独自システムの開発・カスタマイズ

約半数（48.8%）が年間300万円以上

SaaS製品の利用

約半数（51.0%）が年間50万円未満

母数：中小企業の経営者・役員300人のうち、各手段を利用している層。対象層が異なるため単純比較はできません。

出典：株式会社NEXERとシステム開発会社の株式会社TSSソフトウェアによる調査（2026年5月）<https://www.tss-sw.co.jp/> / 株式会社btobee「中小企業のDX調査」（2026年7月）

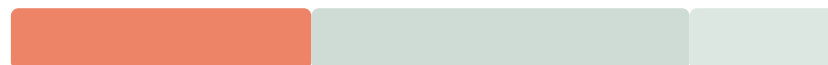
起きている事実② SaaS

SaaSも、3社に1社以上が「失敗した」と感じている

安く始められる一方で、既存の仕組みとつながらない・業務に合わないといった理由で、思うように使えないケースがあります。

過去1年以内に、SaaSの導入・継続判断で「失敗した」と感じたことがある

36.4%



■ はい 36.4% ■ いいえ 45.8% ■ その他 17.8%

母数：従業員100人以上の企業で、業務にAIを活用する情報システム・DX推進・経営企画部門の担当者107人

「失敗した」と感じた点（「はい」と回答した人、複数回答）

既存システムとの連携がうまくいかなかった



コストに見合う価値を感じられなかった



現場に定着せず、利用率が低いままだった



業務システムの導入を検討して見送った理由（管理職221人、複数回答）

費用対効果を示せなかった 30.1% / 現場が使いこなせないと判断 22.2% / 予算が確保できなかった 14.4%

出典：エイトレッド「AI時代に生き残るSaaSの条件に関する実態調査」（2026年4月、@IT報道） / NTTデータ ビジネスブレインズ「SaaS・業務システムの費用」実態調査（2026年8月）

起きている事実③ AI

AIを導入しても、使いこなす人材と知識が足りない

生成AIの活用が進まない理由の上位は「スキル・人材の不足」と「リスクを判断できないこと」です。

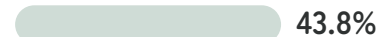
会社として生成AIの活用を推進していない理由

母数：4,358社・複数回答

推進する専門人材がいない



活用の利点・欠点を評価できない



コストがかかる



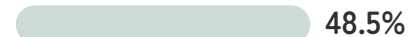
企業が感じている生成AI活用の課題

母数：340社・複数回答

リテラシーやスキルが不足している



リスクを把握し管理することが難しい



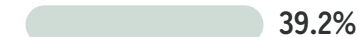
AIで業務ツールを自作する人が、知識不足で壁にぶつかった分野

母数：324人・複数回答

AIが出力した内容の正確性の検証



プログラミングコードの記述・修正



データベースの構築・設計



セキュリティやアクセス権限の管理



生成AIで作ったツールのリリース数が「0個」

21.6%

出典：東京商工リサーチ TSRデータインサイト（2025年8月） / 野村総合研究所「IT活用実態調査（2025年）」 / ジャストシステム「生成AIによる業務システム・ツール自作（内製化）の実態調査2026」

SECTION 02

“AIを使いこなす”という 選択肢を持つことのメリット

課題を解決するための選択肢において、
外注・SaaSと比べたAI開発の良さと、
使いこなすために必要な力をご紹介します



AIを使いこなせると

自分が思い描いた通りの方法で、解決策をつくれる

外注・SaaS・AI開発を比べると、AI開発は「業務へのフィット」と「費用」を両立しやすい手段です。

	 外注（受託開発）	 SaaS	 AI開発 (使いこなせた場合)
費用	 高額になりやすい (独自開発は年間300万円以上が約半数)	 年間50万円未満が約半数。 すぐに始められる	 主にツール利用料と社内の工数
業務へのフィット	 自社の業務に合わせてつくれる	 標準機能の範囲内。足りない部分は 手作業で補う	 自社の業務に合わせてつくれる
思い描いた通りにつくれるか	 要望を正しく伝え、理解してもらえないと形にならない	 機能の追加は提供元しだい	 自分で考え、自分で形にできる
改善・修正のスピード	 修正のたびに依頼と見積もりが必要	 提供元のアップデートを待つ	 気づいたその日に直せる

※ AI開発の評価は、課題を整理する力と、システムを安全に動かす知識を身につけた場合。費用の水準は株式会社btobee「中小企業のDX調査」（2026年7月）より。対象層が異なるため単純比較はできません。

外注・SaaSに残るリスク

外注もSaaSも、「思い通り」にならないことがある

外注は伝え方しだいで、SaaSは機能の範囲しだいで、期待した効果が得られないリスクがあります。



外注

高い費用を払っても、思い通りにならないことも

システム開発の発注で失敗した担当者が「しっかり行うべきだった」こと

発注先候補とのオリエンテーション（何を作るかのすり合わせ）



RFP（提案依頼書）の作成



すり合わせが不十分だと、認識のずれや遅延が起こり、コストが増えたケースの半数超が当初の1.5倍以上に



SaaS

欲しい機能がなく、手作業が残ってしまうことも

オンプレミスからSaaSへの移行で最も苦勞したこと（236人）

カスタマイズが制限され、業務や運用の見直しが必要に（最多）



SaaS移行に不満を感じた理由（不満と回答した企業）

カスタマイズ性に制限があり、できないことが多い（最多）



運用にあたり必要な機能が不足している



出典：フロンティア（レディクル）によるシステム開発の発注失敗経験者110人への調査（2024年2月、Forbes JAPAN報道） / jinjer株式会社「オンプレミス型システムからSaaSへの乗り換えに関する実態調査」（2025年1月） <https://jinjer.co.jp/>

AI開発の広がり、新たなリスク

AIでつくったアプリが、広く使われる時代に

AI開発ツールで作られ、公開されていたアプリ

約38万件

Lovable／Base44／Replit／Netlify製の公開アプリ・関連資産

約5,000件（約1.3%）

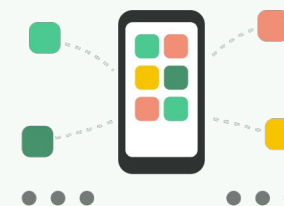
保護が不十分で、機密性の高い情報を含む

約2,000件（約40%）

機密・個人情報が外部から閲覧可能

医療記録、銀行の内部財務情報、顧客との会話ログなどが閲覧可能に。第三者が実際に持ち出した件数は公表されていません。

生成AIによって、非エンジニアがコードを書かずに作成したアプリやサービスが、多くの人々に利用されることが増えてきました。



2028年までに予測されるソフトウェア欠陥の増加

+2500%

現在

2028年

市民開発者がプロンプトからアプリをつくる手法の広がりによる予測（約26倍）

出典：RedAccess社の調査（2026年5月、Axios／WIRED報道）、Gartner社「Predicts 2026」

使いこなせないまま公開すると...

「動く」けれど「安全ではない」トラブルが増えています

知識が足りないまま開発・公開すると、エンジニアなら避けられるはずのトラブルが起きてしまいます。



設定不備での
秘匿情報の流出

10.3%

アプリでDBが丸見え



脆弱性の高いコード

45%

AI生成コードに脆弱性



ハルシネーションに
よる不具合と
原因特定の煩雑化

+19%

作業時間が増加



コード重複による
修正・デバッグの
煩雑化

8倍

重複コードの増加



インフラ費用の高騰

約345万円

の請求事例も

出典：CVE-2025-48757、Veracode社、METR、GitClear社、UsageBox（詳細は巻末の出典一覧）

AIを使いこなすために

必要なのは「2つの力」です

ツールを入れるだけでは、AIを使いこなすことはできません。AI開発には、次の2つの力が欠かせません。



1 課題を整理・言語化する力

何をつくるか、どんなルールで動くかを整理して、AIに正しく伝える力。

AIへの指示を漏れなく出し直す調整に **71.3%**が負担を感じている



2 システムを正しく安全に動かすための知識

AIの出力が正しいかを確認、データやアクセス権限を安全に扱うための知識。

知識不足で壁にぶつかった分野の最多は「AI出力の検証」 **44.8%**

せんせいAIは、この2つの力を実践の中で育てるサービスです

出典：ジャストシステム「生成AIによる業務システム・ツール自作（内製化）の実態調査2026」（生成AIでツールを自作している、または導入を進めているビジネスパーソン324人）

SECTION 03

せんせいAIでは、 AI活用に必要な2つの力を 実践しながら身につけます

せんせいAIは、AIを使った開発業務のサポート・代行を通して、この2つのスキルを育て、自分で思い通りのツール・システムが開発できる力を身につけられるサービスです。



主なご支援内容

設計から公開後まで、必要なところを必要な分だけ



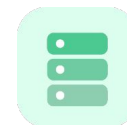
サービスの設計の支援

後から機能を足しやすく、影響範囲が広がりにくい構成と一緒に考えます。



コード管理・秘匿情報の 管理方法の設計支援

ソースコードの管理方法と、APIキーやパスワードの安全な置き場所を決めます。



インフラ構築の支援・代行

サーバーやデータベースを適正な規模で構築し、費用の上限やアラートも設定します。



コードのレビュー・デバッグ

AIが書いたコードの正しさと安全性を確認し、不具合の根本原因を特定します。



テスト代行・脆弱性診断

公開前・改修後に、想定通りに動くか、情報が漏れないかを確認します。

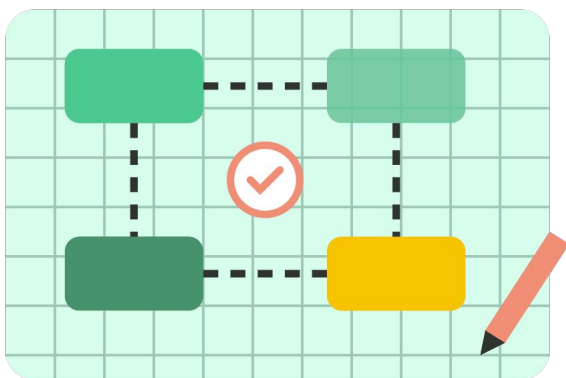


UI/UX設計・実装支援

実際にシステムやアプリのユースケースの整理や、動線を意識したUIの設計と実装を支援します。

サービスの設計の支援

作りたいものを聞き取り、後から機能を足しても壊れにくい全体の設計図を一緒につくります。



関連データ（GitClear社）

重複したコードのかたまりは2024年に8倍に増加

提供するサービス内容

- 画面・機能・データの洗い出しと整理
- データベースのテーブル・権限の設計
- 機能ごとにコードを分ける構成の決定
- AIに渡す設計書・開発ルールの作成

想定される効果

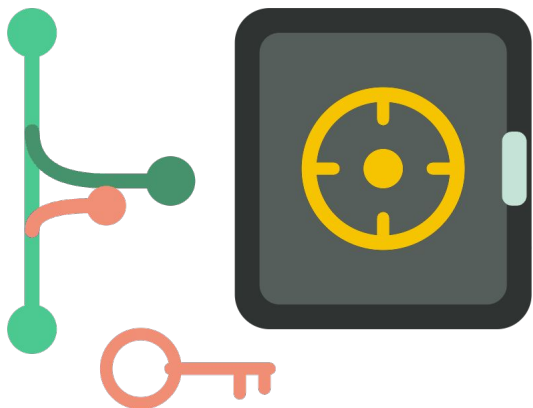
- ✓ 機能を追加しても、影響範囲が小さく済む
- ✓ AIへの指示が具体的になり、手戻りが減る
- ✓ 将来の改修や引き継ぎがしやすくなる

防げるリスク

- ④コード重複
- ③不具合・原因特定
- ①秘匿情報の流出

コード管理・秘匿情報管理方法の設計支援

ソースコードの変更履歴と、APIキーやパスワードなどの「鍵」を安全に管理する仕組みを整えます。



関連データ（GitGuardian社）

AIツールを使ったコミットの秘密情報漏えい率は平均の約2倍（3.2%）

提供するサービス内容

- GitHub等でのバージョン管理の導入と運用ルールづくり
- APIキー・パスワードを環境変数や専用の保管場所へ移行
- 公開前に秘密情報を検出するチェックの設定
- アカウントと権限（誰が何を触れるか）の整理

想定される効果

- ✓ 鍵を誤って公開してしまう事故を防げる
- ✓ いつ誰が何を変えたかを追え、元に戻せる
- ✓ 担当者が変わっても管理方法を引き継げる

防げるリスク

- ① 秘匿情報の流出
- ③ 不具合・原因特定

インフラ構築の支援・代行

サーバーやデータベースを、規模と予算に合った形で安全に構築します。



関連データ (UsageBox)

攻撃による大量アクセスで約23,000ドル（約345万円）の請求事例

提供するサービス内容

- 規模に合ったサーバー・データベース・料金プランの選定
- 開発用と本番用の環境の分離
- 予算アラート・利用上限の設定
- データベースのアクセス制御とバックアップの設定

想定される効果

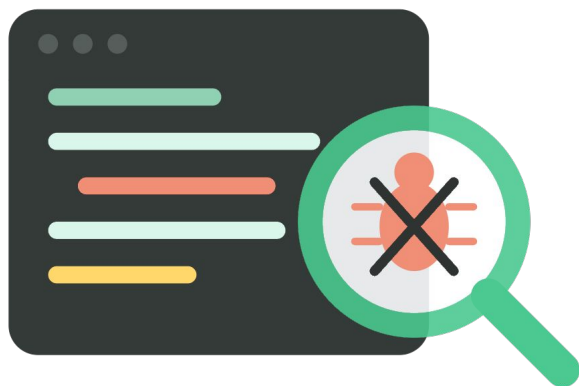
- ✓ 想定外の高額請求を防げる
- ✓ 本番データの誤削除や消失に備えられる
- ✓ 過剰なスペックを避け、月額費用を最適化できる

防げるリスク

- ⑤ インフラ費用
- ① 秘匿情報の流出
- ③ 不具合・原因特定

コードのレビュー・デバッグ

AIが書いたコードをエンジニアが読み、正しさと安全性を確認します。不具合が起きたときは根本原因まで突き止めます。



関連データ (Veracode社)

AIが生成したコードの45%に代表的な脆弱性

提供するサービス内容

- AIが書いたコードの
正しさ・安全性の確認
- 代表的な脆弱性
(OWASP Top 10相当) のチェック
- 不具合発生時のログ調査と
根本原因の特定
- 修正方針とAIへの指示の出し方の
アドバイス

想定される効果

- ✓ 「動くけれど危ない」コードを
公開前に見つけられる
- ✓ 不具合の原因特定にかかる時間を
短縮できる
- ✓ 理由も説明するため、
社内の判断力が育つ

防げるリスク

- ②脆弱性
- ③不具合・原因特定

テスト代行・脆弱性診断

公開前や改修後に、想定通りに動くか、情報が漏れないかをエンジニアが確認します。



関連データ（CVE-2025-48757）
調査したアプリ1,645件中170件で、
データベースが外部から閲覧可能

提供するサービス内容

- テストの観点とテストケースの作成
- 公開前・改修後の動作確認
- 他人のデータが見えないかなど、
権限まわりの確認
- 簡易的な脆弱性診断

想定される効果

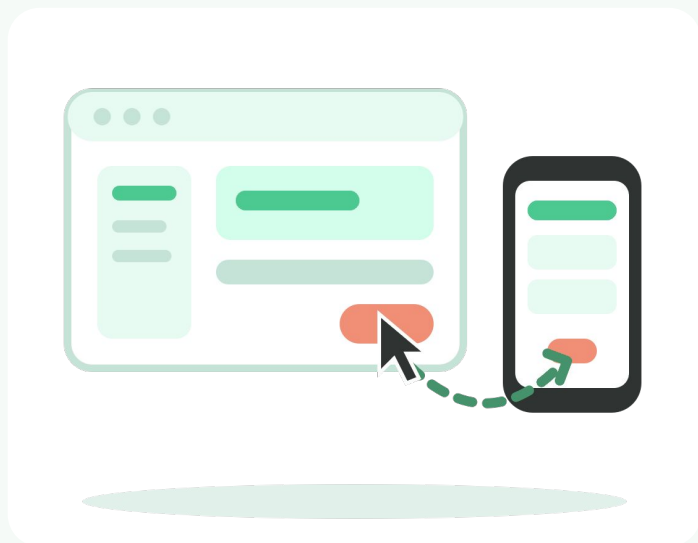
- ✓ 公開後の不具合やクレームを減らせる
- ✓ 改修で既存の機能が壊れていないか
確認できる
- ✓ 情報漏えいの穴を公開前に塞げる

防げるリスク

- ①秘匿情報の流出
- ②脆弱性
- ③不具合・原因特定

UI/UX設計・実装支援

システムを使う人と場面を整理し、迷わず操作できる画面の流れ（動線）を設計・実装します。



関連事例（クリーヴァの実績）

業務システムの動線設計の事例を、次のページで紹介しています

提供するサービス内容

- 利用者と利用シーンの整理
- 利用者ごとの画面構成・動線の設計
- 画面イメージ（ワイヤー）の作成
- AIで作った画面のUI改善・実装

想定される効果

- ✓ 説明しなくても使える画面になり、問い合わせが減る
- ✓ 現場に定着しやすく、入力漏れや操作ミスが減る
- ✓ 使いやすさが、利用者の継続利用につながる

防げるリスク

操作ミス・入力漏れ

現場で使われない

SECTION 04

料金プランと チケットの使い方

目的と開発体制に合わせた4つのプランと、
チケットの使い方をご紹介します



費用は？

目的と開発体制に合わせた4つのプラン

毎月付与されるチケットを、必要なメニューに使えます。表示価格はすべて税抜です。

ライトプラン



副業・個人事業主・1人法人で、
AIを使って新しくサービス・
システムを開発する方

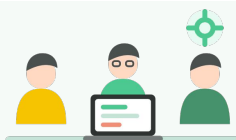
5万円／月（税抜）

13チケット

追加チケット：1枚4,500円（税抜）

初期費用 10万円（税抜）

スタンダードプラン



社内の業務を効率化する
システムを、AIを使って
複数人で開発する企業

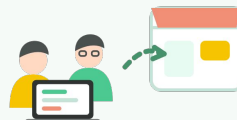
30万円／月（税抜）

96チケット

追加チケット：1枚4,500円（税抜）

初期費用 10万円（税抜）

プロプラン



新しく外販するサービス・
システムを、AIを使って
複数人で開発する企業

50万円／月（税抜）

160チケット

追加チケット：1枚4,500円（税抜）

初期費用 10万円（税抜）

エンタープライズ



サービス・システムを、
AIを使って10人以上で
開発する企業

要相談

人数とお見積りに応じて

追加チケット：1枚4,500円（税抜）

初期費用なし

リリース記念キャンペーン 初期費用10万円（税抜）が、先着10社まで無料（エンタープライズは初期費用なし） | 最低契約期間：全プラン3ヶ月から

対応内容ごとに、使うチケットが決まっています

メニューごとに消費チケット数が決まっています。打ち合わせ1回からご利用いただけます。

支援内容	メニュー	単位	消費チケット
共通	打ち合わせ（オンライン）	1回	2チケット
① サービスの設計の支援	機能の設計レビュー・アドバイス	1機能	3チケット
	全体設計書の作成	1システム	15チケット
② コード管理・秘匿情報管理	GitHub導入・運用ルール作成	1式	8チケット
	秘密情報の棚卸し・移行	1環境	5チケット
③ インフラ構築の支援・代行	構成・料金プランの選定	1式	5チケット
	本番環境の構築代行	1環境	15チケット
	予算アラート・利用上限の設定	1式	2チケット
④ コードのレビュー・デバッグ	コードレビュー	1機能	3チケット
	不具合調査・原因特定	1件	5チケット
⑤ テスト代行・脆弱性診断	テストケース作成・動作確認	1機能	3チケット
	簡易脆弱性診断	1システム	20チケット
⑥ UI/UX設計・実装支援	動線・画面構成の設計	1画面	3チケット
	UI実装支援	1画面	5チケット

使い方のイメージ

チケットは、その月に必要な対応に合わせて使えます

プランごとの1ヶ月の使い方の例です。

ライトプラン | 毎月13チケット

開発中のサービスを、公開前に点検したい月

選んだ支援内容：④ コードのレビュー・デバッグ

打ち合わせ ×1回	2
コードレビュー ×2機能	6
不具合調査・原因特定 ×1件	5

合計 13 / 13 チケット

スタンダードプラン | 毎月96チケット

社内システムの開発を始める月

選んだ支援内容：①～⑥から自由に組み合わせ

打ち合わせ ×4回	8
全体設計書の作成	15
GitHub導入・運用ルール作成	8
秘密情報の棚卸し・移行	5
構成・料金プランの選定	5
本番環境の構築代行	15
予算アラート・利用上限の設定	2
コードレビュー ×6機能	18
テストケース作成・動作確認 ×3機能	9

合計 85 / 96 チケット 残り11

プロプラン | 毎月160チケット

外販サービスを公開する直前の月

選んだ支援内容：①～⑥から自由に組み合わせ

打ち合わせ ×4回	8
機能の設計レビュー ×5機能	15
コードレビュー ×10機能	30
不具合調査・原因特定 ×4件	20
テストケース作成・動作確認 ×5機能	15
簡易脆弱性診断	20
動線・画面構成の設計 ×5画面	15
UI実装支援 ×5画面	25

合計 148 / 160 チケット 残り12

※ 数字は消費チケット数。打ち合わせは全プラン共通でご利用いただけます。チケットが不足した場合は、全プラン1枚4,500円（税抜）で追加できます。

長期契約の特典・初期費用

長く使うほど、毎月のチケットが増えます

6ヶ月契約でチケット+10%、12ヶ月契約で+20%。最低契約期間は全プラン3ヶ月からです。

契約期間ごとの毎月のチケット数

プラン			
	3ヶ月契約	6ヶ月契約 (+10%)	12ヶ月契約 (+20%)
ライト	13枚	14枚	15枚
スタンダード	96枚	105枚	115枚
プロ	160枚	176枚	192枚
エンタープライズ	個別にご相談		

※ 増えたチケットの端数は切り捨てています。

初期費用

サービスリリース記念

通常 ~~10万円~~ (税抜)

0円

先着10社限定

対象：ライト・スタンダード・プロ
エンタープライズプランは、初期費用なしでご利用いただけます。

SECTION 05

なぜ『せんせいAI』で あるべきなのか

競合他社にない、
弊社独自の強みについてご紹介させていただきます



通常の受託開発と比較して

外に任せず、社内に開発力をつくる

開発を外に任せるのではなく、社内に開発できる体制をつくることで、3つの違いが生まれます。

開発体制



通常の受託開発



開発会社に依存。
修正のたびに依頼と調整が必要

開発費用



開発会社の利益分が費用に上乗せされる

契約後に残るもの



納品されたシステムのみ



せんせいAI



内製で開発体制をつくれる。
そのため小回りが効きやすい



外注時の開発会社の利益分をカットでき、
開発費用を抑えられる



組織資産が残りやすい。
リテラシーを持った社員が増えた状態になる

セキュリティへの取り組み

ISMS認証を取得したグループの体制で支援します

クリーヴァが属するリーフワークス グループは、情報セキュリティの国際規格「ISO/IEC 27001」の認証を取得しています。



ISO/IEC 27001 認証取得

認証の概要

規格	ISO/IEC 27001（ISMS：情報セキュリティマネジメントシステム）
認証の形態	リーフワークス グループでのグループ認証
認証番号	ISA IS 0382

ISMSとは

情報を守るためのルールづくり・運用・見直しを、組織として続けていく仕組みの国際規格です。第三者の審査機関による審査を受けて認証されます。

せんせいAIでの活かし方

ISMSの運用で培った情報管理の考え方を、コード管理・秘匿情報管理のルールづくりや、脆弱性の確認・テストの支援に活かします。

導入実績

大手ライブ配信サービスの構築も支援しています

支援事例

オンラインライブ配信サービス 「Z-aN」

エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ株式会社

支援内容 **ライブ配信システムの構築支援**

サービスの特徴

アプリ不要、ブラウザで視聴

高ビットレートの高画質・高音質配信

NFT付きデジタルチケット

※ サービスの特徴は公開情報より

この経験を、せんせいAIの支援に



止まらない構成づくり

視聴者が一斉に集まるライブ配信を支えた知見で、アクセスが集中しても止まりにくい構成を設計



情報を守る設計

有料サービスに求められるアクセス制御と情報管理を、データ分離や権限の設計に反映

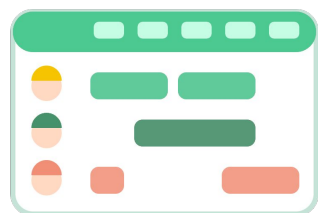


ISMS体制での支援

グループのISMS認証の運用ルールに沿って、安全に支援

使う人に合わせた動線で、現場に定着するシステムに

クリーヴァがこれまでに開発した業務システムの一部をご紹介します（社名は非公開）。



時間を作り出す案件

A社（職人を現場に配置する企業）

つくったもの

案件の受発注・請求管理と、職人の配置・シフト管理のシステム

成果

管理部門が把握できる範囲が広がり、営業に使える時間と対応できる案件数が増えた



時間を作り出す案件

B社（スクール運営企業）

つくったもの

講師への支払い・生徒への請求管理と、時間割の作成・調整のシステム

成果

講師が授業準備や個別指導に使える時間が増えた

せんせいAIで支援するUI設計の観点

1

使う人ごとに、必要な画面と情報だけを見せる

2

よく使う操作を、少ない手順で終わられる流れにする

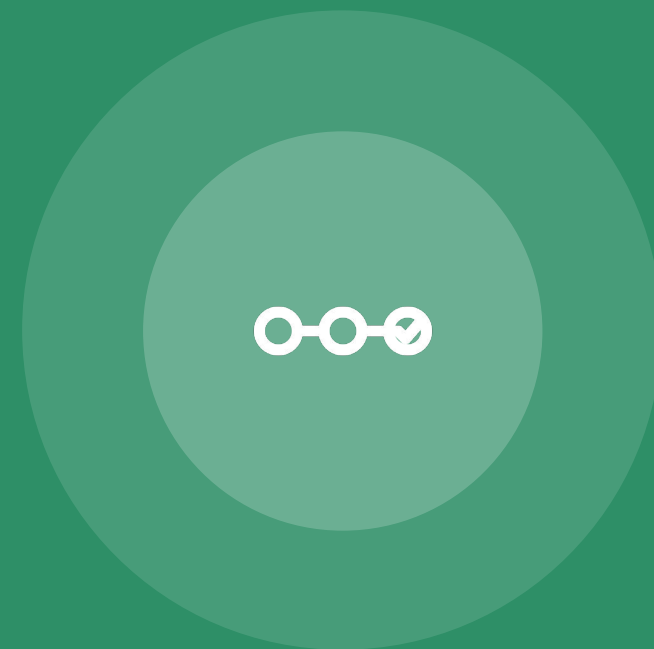
3

選択式や確認画面で、入力ミスを起こしにくくする

SECTION 06

利用開始までの流れと ご契約後のフォロー

ご利用いただく場合のサービス開始までの流れと
サービス開始後のフォロー体制についてご説明します



ご利用開始までの流れ

目標を決め、3か月間の支援計画を立ててスタート

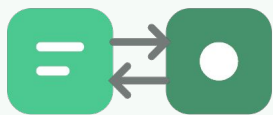
ヒアリングから支援開始まで、5つのステップで進めます。



目標設定 → 支援内容の整理 → 3か月間の計画 → 支援開始 → 振り返り で確実にゴールへと先導します

契約終了後の効果・納品物について

契約が終わっても、社内で安全に開発を続けられる



情報管理・情報連携の ツール整備体制

コードや秘匿情報を安全に扱うためのツールと、その運用体制を整えます。



コード管理・情報の 管理方法のマニュアル

やってはいけないこと、守るべきルールをまとめ、新しいメンバーにも引き継げる形にします。



毎月の業務報告書

その月に対応した内容、見つかったリスク、次に取り組むべきことを報告します。

出典

本資料で参照した調査・報道

1. 株式会社NEXERとシステム開発会社の株式会社TSSソフトウェアによる調査（2026年5月） <https://www.tss-sw.co.jp/>
 2. 株式会社btobee「中小企業のDX調査」（2026年7月）
 3. エイトレッド「AI時代に生き残るSaaSの条件に関する実態調査」（2026年4月、@IT報道）
 4. NTTデータ ビジネスブレインズ「SaaS・業務システムの費用」実態調査（2026年8月）
 5. jinjer株式会社「オンプレミス型システムからSaaSへの乗り換えに関する実態調査」（2025年1月） <https://jinjer.co.jp/>
 6. フロンティア（レディクル）システム開発の発注失敗経験者への調査（2024年2月、Forbes JAPAN報道）
 7. 東京商工リサーチ TSRデータインサイト「生成AI活用」調査（2025年8月）
 8. 野村総合研究所「IT活用実態調査（2025年）」
 9. ジャストシステム「生成AIによる業務システム・ツール自作（内製化）の実態調査2026」
 10. CVE-2025-48757（Lovable製アプリのデータベース露出、Matt Palmer氏らの報告）
 11. GitGuardian社「The State of Secrets Sprawl 2026」
 12. Veracode社「2025 GenAI Code Security Report」
 13. METR「Measuring the Impact of Early-2025 AI on Experienced Open-Source Developer Productivity」
 14. GitClear社「AI Copilot Code Quality 2025」
 15. UsageBox「The \$23,000 Vercel Bill」
- ※ 各調査は対象・時期・設問が異なるため、数値の単純比較はできません。Veracode社、GitGuardian社、GitClear社、ジャストシステムは関連製品を提供する企業です。



お問い合わせ

まずはヒアリングから

開発中のシステムの状況をうかがい、リスクと最適なプランをご提案します。

[ヒアリングを申し込む](#)

<https://sales.aicounter.jp/i/creava/inquiry-73rd38>